

開 議

○蒲生光男議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、6番、竹田博一議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、宇津木正紀市民課長が欠席のため、鈴木良輔市民窓口主幹兼補佐が出席しておりますので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○蒲生光男議長 日程第1、市政一般に関する質問を7日に引き続き行います。

それでは順次、ご指名いたします。

我妻 昇議員の質問

○蒲生光男議長 順位6番、議席番号7番、我妻昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 おはようございます。それでは、一般質問をさせていただきます。

ことしこそ暖冬であろうという希望的観測を持っておりましたが、あっさりとそれは崩れてしまい、またもや豪雪を思わせる雪の降りようであります。せめてこの冬は交通事故や除雪、雪おろしでの事故などが起きないことを願いな

がら、一般質問をさせていただきたいと存じます。ご答弁のほどをよろしくお願いいたします。

質問は大きく1点、あやめ公園周辺を市民からも、観光客からも、子供からお年寄りまでみんなに愛される空間にという内容でございます。

ことしの3月議会から観光振興計画、都市再生整備事業についてさまざまな議論をしてまいりました。しかし、今もなお納得できないままではいるのは私だけではないと感じております。

昨年の3月に長井市行財政改革推進委員会から答申を受けた「公共施設の今後の在り方について」を拝見いたしますと、長井市の所有する公共施設は100施設、110棟で、そのうち築25年を経過しているものは58施設あり、そのうち40年を超えるものが16施設で、既に建てかえが必要な状況にあります。10年後にはさらに25の施設が築40年を超えることとなり、全体で4割の建物が築40年を超えることとなります。公共施設の寿命を40年程度とすると、施設の更新時期が今後連続し、財政面で厳しい状況が見込まれますと書かれております。

さらに、以下のような指摘をされております。建設当初には国庫補助金等の有利な施策を活用して建設したために、長井市の負担は少なく抑えられ、維持管理や運営に費用が注がれてきたところであります。しかし、今後、建てかえ事業について活用できる有利な施策は望むことができず、市負担のみで建てかえることは現実的には不可能であることは明白です。また、建設時は右肩上がりの経済状況と人口の増大を背景に目白押しの公共事業として推進してきましたが、今後は人口減少、高齢者人口率の増大、税収入の減少、さらには福祉関係費用の増大が予想され、公共施設の統合や集約は必須であり、市民の理解を得ながら総合的に管理していかなければなりません。将来の人口構成についての予測と長井市の財政規模に適した施設の数や内容を検討し、建てかえの優先順位が高い施設、

逆に将来的には売却や廃止が求められる施設などを区分し、将来の財政負担の適正化を図らなければなりません。こうしたことから、長井市の地区ごとにあるような施設を今までと同様に維持管理することは非常に厳しい状況にあり、施設の統廃合が不可欠と考えますが、住民サービスと行政コストのバランスを図りながら、多くの住民が利用しやすい公共施設とするために、思い切った投資をして施設の魅力を高めたり、アウトソーシングを活用することで民間の施設運営ノウハウを十分に引き出して、サービス向上を図るようご検討いただきたいところです。さらに、古い建築基準等によって建設された施設の安全性については、早急に確認を要すると思われ、万一の災害に向けた住民の安全確保対策が急務とされる状況となっていますという内容です。

1年8カ月前に長井市の公共施設についてこうした指摘を受けたにもかかわらず、なぜ市民を巻き込んだ議論をしてこなかったのか、私には理解できませんし、議論や計画づくりがなされないまま、観光振興、都市再生整備の名のもとに新しい施設を建設する計画が先行されるのか理解できません。新しい事業を展開するときに、類似する既存の事業をそのままにして進めるというやり方が果たしてあるのでしょうか。採算のとれない会社をそのまま経営しながら、さらに借金を重ねて新しい土地を買い、新しい社屋を建設するようなことが果たして成り立つのでしょうか。しかも成功するかどうかかわからないビジネスに。

長井市行財政改革推進委員会の答申の中でこのたび私が注目した部分は、あやめ公園周辺にあります。古い順に並べますと、建設から24年が経過している野球場……。

(「42年」の声あり)

○7番 我妻 昇議員 済みません。建設から42年が経過している野球場、41年が経過している

陸上競技場、通告書にはグラウンドと表現しましたが、正しくは陸上競技場です。40年が経過しているあやめ会館、33年が経過しているテニスコートとなり、いずれの施設も老朽化の問題、排水の問題などを抱えていたり、生涯学習プラザ東側運動公園との整合性を図るよう指摘されております。

特に、あやめ会館については、検討委員会の設置を急ぎ、十分な話し合いを行い、通年利用を主としたあやめ公園全体の計画づくりに着手すべきである。現在のままの使用は景観上ふさわしくないとも具体的な指摘を受けています。私は、観光施設として40年が経過したあやめ会館は、もはやあってはならない施設であると断定されたも同然だと感じました。

これらを踏まえ、以下の提案と質問をさせていただきます。

一つ目は、道の駅、花公園をあやめ公園に集中させて整備してはどうかという点であります。先日の観光シンポジウムでありましたとおり、あやめ公園に観光客が何万人訪れたのかどうかというよりも、幾らお金を使ってくれたのかが重要であると私も思います。それならば、あやめ会館と無料休憩所、物産館を取り壊し、道の駅のような施設を建ててはいかがでしょうか。道の駅は国道287号線沿いでなければならぬという頭のかたい考え方から脱却し、もっと柔軟に発想すべきだと思うのであります。しかも、国道に道の駅を建設してしまうと、あやめ公園にいらっしゃる観光客が激減すると思います。なぜならば、図らずもトイレ休憩がわりに立ち寄る方や、食事するところがあればどこでもよいという方が相当数いらっしゃると思われるからです。

また、行財政改革推進委員会の指摘のように、私もあやめ公園は通年型にすべきであると考えていますので、花公園の構想を長井駅前ではなくこちらにシフトさせてはいかがでしょうか。

現在の案では7億3,000万円で駅前に花公園を建設する計画ですが、その額の半分ほどは旧グンゼ、現在の長井アパレルさんの土地買収費用になるのではないのでしょうか。新しい土地を買うのではなく、あやめ公園を通年型にする費用に充てたほうが有効であると思うのですが、いかがでしょうか。あやめ公園ならば現在でも大型バスが行き来していますし、河川敷には大きな駐車場もあり、新たに整備する必要がありますのでより効率的だと思われませんが、いかがでしょうか。観光振興課長並びにまち・住まい整備課長に伺うものであります。

次に、グラウンドや球場、テニスコートやプールを再整備すべきではないかであります。これらは、フラワー長井線の線路を挟みあやめ公園と隣接していますので、観光に生かさない手はないと考えています。老朽化甚だしい施設ではありますが、利用頻度は高いと思います。スポーツ大会で人が集まれば物が動きます。生涯学習プラザ東側運動公園が完成しても館町南の大型ショッピングモールで買い物をすると予想されますが、こちらの場合は隣接する道の駅で買い物をし、地元が潤います。これらスポーツ施設の再整備に予算を使うだけの根拠があると思いますが、いかがでしょうか。

宮プールは既に廃止され更地になっていますので再整備は難しいかもしれませんが、50メートルプールを懐かしみ、再開を望む声も多いと感じています。後で述べますプレイパークとの相乗効果もあり、有効だと思いますが、いかがでしょうか。教育長に伺うものでございます。

三つ目は、河川敷と対岸を人道橋で結び、温泉を生かすべきではないかという点であります。以前から野川河川敷は市民の憩いの場所になってきました。春は土手にある桜並木が淡いピンクのトンネルのごとく咲き乱れ、隠れた名所になっており、旬になれば釣り人が魚を追いかけ、夏はバーベキュー、秋は芋煮会で毎週のように

にぎわいます。この河川敷とはぎ苑の温泉を歩道の橋、人道橋で結べば、新たに大きな魅力が加わること間違いないでしょう。あやめ公園、道の駅、スポーツ施設、温泉、それぞれがそれぞれを引き立て合う関係になるのではないのでしょうか。

はぎ苑からは入湯税を納めていただいております。入湯税は目的税であり、使い道が決められております。観光振興に関する事業に充てなければなりません。逆に言えば、人道橋を建設しても長い目で見れば元が取れるということですので。入湯税はもらいつ放しではだめなのであります。行政と民間が相乗効果の関係で成り立つすばらしい事業だと思いますが、いかがでしょうか。市長に伺うものでございます。

四つ目は、雨や雪に強い屋根つきの広場を整備してはどうかということであります。野川河川敷の利用が盛んであると述べましたが、ここ数年は新しいイベントもふえてきております。でも、せっかく人を集めても雨が降れば中止にするか、あるいはあやめ会館を借りるしかありません。しかし、あやめ会館は積極的に人を呼ぶ施設とは言いがたいところですので、屋根つき広場が必要になるのではないかと思います。公園内にスペースがなければ球場側でもよいと思います。各種スポーツ大会も天気によって左右されますので、全天候型の広場があればさらなる相乗効果を生み出すのではないのでしょうか。まち・住まい整備課長にご答弁をお願いいたします。

五つ目は、高台、あやめ公園、ガード下、グラウンドをつなげ、子供たちが楽しく遊べるプレイパークに整備してはどうかであります。現在もあやめ公園高台にある遊具で遊んだり、公園内を走り回ったり、河川敷の親水護岸で水遊びをしたりと、子供たちが遊ぶ空間として十分かもしれません。

ここでは、全国各地にプレイパークやプレー

パークと呼ばれる自由な遊び空間ができていますので、紹介したいと思います。

長井市の近くでは仙台市若林区にある海岸公園冒険広場と西公園プレーパークがあります。滑り台やブランコのように使い方が決まった安全な遊びではなくて、最近の大人が危ない、汚いと思うようなことの中にこそ本当は子供たちにとって大好きな遊びがあり、発見がある。みずから考え、判断する能力を育むという考え方は、自分の責任で自由に遊ぶのが基本ですが、賛同する地域の大人たちが子供たちのお手伝いをします。たき火や落書きや泥遊びなど、なるべく禁止事項をつくらないのが特徴です。多額の予算で整備するのではなく、エリアを設定し、最小限の整備をして協力者を募るという単純なことでできるようでございますので、ぜひ調査検討をお願いしたいと存じますが、いかがでありますでしょうか。市長のお考えをお聞きし、壇上からの質問といたします。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

我妻議員のご質問にお答えいたします。

我妻議員からは、あやめ公園周辺を市民からも、観光客からも、子供からお年寄りまでみんなに愛される空間にしてはどうだというご提言でございます。私も全くこれは同感でございます。

ご承知のとおり、あやめ公園はことして102年目を迎えた市の公園としては非常に歴史があり、また市民にも愛されている長井市のシンボルの公園であります。そういった意味からも、あやめ公園とあわせて市民総合グラウンド、ここは一带を都市公園として従来からずっと長井市としては力を入れて整備してきたところでございますので、そういった意味では、このあやめ公園周辺をより市民の皆さんから、あるいは周りの市町村、観光客からも愛され、親しまれ

る、そんなエリアにしたいということは全く同感でございます。

私のほうからは、2点ほどご質問いただいておりますんですが、我妻議員がおっしゃっております行財政改革推進委員会からの答申でございますが、これは私ども、市民の皆様と議会からもご協力いただいて、まさに血と汗と涙の改革であった平成18年から22年の集中改革プランの最終年度ということで、その成果を今後とも生かすべきであるというところから、次期総合計画、したがって26年から35年までの総合計画にこれを生かさなきゃいけないと、この教訓をとということで、市のほうから行革委員会のほうに諮問した内容でございます。

議員のご指摘のとおり、まさに長井市の100以上ある公共施設、これは公の施設という観点から、まさに深刻な状況であることは議員のご指摘のとおりでございます。ただし、これを1年8カ月放置していたというような表現は当たらないと私は思っております。

例えば、特にあやめ公園の都市公園をどうするかということについては、今年度から来年度にかけて、まち・住まい整備課で進めております国土交通省の都市公園長寿命化計画というメニューを見つけまして、26年からそれを実現すべく、現在、計画を検討、策定中でございます。

また、問題の多い文化施設、スポーツ施設、そして学校の長寿命化等々についても、あるいは文化会館をどうする、スキー場をどうする、また文教の杜をどうするといったことにつきましては、23年度にいろいろそれぞれの委員会等々から諮問をいただいて、それを今定例会で予算を上程させていただいております。来年のできれば1月、遅くても2月にスタートするそれぞれの整備検討委員会といたしますか、そこで平成26年度からの総合計画に反映させるべく準備をしたいということでございますので、議員

ご指摘の部分についてはしっかりと第5次総合計画で、この10年計画の中で整備すると、あるいは長寿命化計画を立てて随時補修していくということで考えておりますので、よろしくご理解賜りたいと思います。

また、観光振興や都市再生整備の名のもとに採算性の厳しい新しい施設をつくるのは誤りでないかということでございますが、これについては、議員触れられておりませんが、本町の街路事業あるいはこの3日に協議会が設立されました駅前通りの街路事業、県の事業でございますけれども、これらを一体として進めながら中心市街地の活性化、とりわけ最上川の舟運文化を伝える歴史的な町並みが小出と宮にあるわけですから、それらを生かしてどのように地域活性化を図るかという視点からの取り組みでございまして、そういった意味では、我妻議員がおっしゃってる内容と、今回の都市再生整備計画を含めた観光振興というのは必ずしも相反してるものではないと。むしろ我妻議員がおっしゃってるご提言も大切だし、こちらの中心市街地の活性化どうするかといったことも近隣の課題であるというふうに思いますので、それらを踏まえて答弁をさせていただきたいと思っております。

私からは、(3)の野川河川敷と対岸を人道橋で結び、温泉を生かすべきではないかということでございます。これは以前にもご質問いただいて、答弁させていただいた内容でもございますが、また、あえてより具体的にご提言いただいたということだと思っております。

これはまず、ちょうど対岸のはぎ苑のほうには、管轄が山形県の管轄の河川区域でございます。そんなことから、以前から、私のときも、その前の前市長のときから、そういったことで県にいろいろ要望した経緯があるということでございますが、残念ながら私になりましてからもさまざまな要望をさせていただきました。

まず、一番市として望ましいのは、しっかり

とした橋をかけていただくことでございますが、これはなかなか、すぐそばに野川橋があるわけですから難しいということで、やはり人道橋といますか歩道橋ということだと思います、人が渡れる橋ということで何度も要望等をいたしました。事務レベルではなかなか、まず話にもならないということでございまして、地元の県会議員、あるいはさまざまな状況でお願いはしてまいりましたが、まず認知的にも法的にも難しいということと、あと経費の問題があるようでございます。そのため、フットパスルートの計画の中で、飛び石、潜り橋ですね、そういった整備についても検討、依頼など要望等をお願いしたけれども、こちらについても洪水時の安全性や構造物の耐久性など課題が多く、断念せざるを得なかったということがあるようでございます。

ただ、今回、先ほど申し上げましたあやめ公園の長寿命化計画の中で、関連施設の一つとしてできないかということで、補助を受けながら、こういった整備を市の単独事業として県のほうに認可を仰ぐというようなことで挑戦してみたいと思っております。

なお、ざっとした見積もりでは、歩道橋としてかけた場合でも、やっぱり数千万円の単位でなくて、数億円までは行かないとは思いますが、1億円以上の概算見積もりが出ておりますので、これらについても、むしろ入湯税を払っていただいている見返りということではなくて、あくまでもあやめ公園にいらした市民、周辺の市町村の方、あるいは観光客の皆さんが、よりいろんなところで長井市内でお金を使っただけのような、そういった観点から、ぜひはぎ苑とはいろんな意味で結べば相乗効果が大きいだろうと考えておりますので、なお今後の課題として検討してまいりたいと思っております。

次に、私がいただいた2点目、(5)の高台、あやめ公園、ガード下、グラウンドをつなげ、

子供たちが楽しく遊べるプレイパークに整備してはどうかという点でございますが、我妻議員のほうからご説明もございましたように、プレイパークというのは新しい子供たちの創造力を生かした遊び場というような、冒険遊び場づくりというようなことのございまして、私もちょっとここは認識不足だったわけでございますが。かつてのプレイランドというのは子供たちのプレイランド、これはテーマパークの一種でございますが、これはそういったことじゃなくて自然などをいろいろ生かしてやるべきだという、野川もせせらぎがあるわけですし、河川の公園もありますし、あやめ公園や総合グラウンドがあるわけですから、そういった意味では、エリアとしてはここが非常におもしろい考え方だなあと思っております。

一方で、私のほうでこれに近い考え方をしておいたのは、古代の丘周辺をやはりいろいろ整備すべきだというような市民、地区の要望等がございましたので、そういったところにちょっとこういったコンセプトに近いような考え方で親と子供で一日遊べる、そんなエリアとして古代の丘は考えておりましたが、こちらのあやめ公園周辺も非常に魅力的な場所だと思いますので、これらについては具体的にどういった事業でどういうふうに整備できるかですけれども、ぜひ今後の検討として議員の提言は生かしてまいりたいと、そのように思っているところでございます。

ぜひこちらの議員からあったご提言もすばらしいものでございますが、やはり若い人たちがいかにこの長井市に定着できるかと、それには地域の産業の振興と働く場の確保、雇用、これらを考えますと都市再生整備計画というものも必ずしも不必要なものじゃなくて、こちらは大切だと思いますので、ぜひご理解を賜りたいと思います。

私のほうからは以上でございます。

○蒲生光男議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 私のほうからは、グラウンドや球場、テニスコート、プールを再整備すべきではという我妻 昇議員のご質問にお答えいたします。

市営野球場は昭和45年、市営テニスコートと市営陸上競技場は昭和46年に建設されました施設でありまして、議員ご指摘のとおり、既に41年から42年経過いたしまして、スポーツ施設としての機能も低下し、時代にそぐわない施設で、野球場などについては公式大会や大きな大会の開催もままならない状況となっております。競技団体や市民の皆さんからも大規模改修の要望をいただいておりますし、多種多様なスポーツ活動に対応し、より市民ひとり1スポーツを推進するため、これら3施設の大規模改修、リニューアルは急務であるというふうに考えております。

改修内容につきましては、事務局段階の素案であります。野球場、市民グラウンドは既存施設を改修、改造し、テニスコートは現在の4面から、プール跡地を利用いたしまして6面または8面に増設し、駐車場の整備も必要と考えております。なお、プールの再整備については現段階では計画してございません。

これらのことを今議会に提案しております体育施設整備計画検討委員会にお諮りをして、第5次総合計画、財政の中期展望に上げ、都市公園施設長寿命化計画の中で早期に整備をできるようにしてまいりたいというふうに考えてございます。

また、プレイパークについての、市長のほうからもありましたわけですが、私にとってもこれについては初めての内容でありました。私たちが子供のころには、遊びにとって欠かせない時間と空間と仲間が非常に豊かに身近にございました。遊び場所には物は少なくとも自然が豊かにあり、仲間と工夫しながら遊びを膨ら

ませることができたわけでありませんが、今の子供たちにはそういうものがございません。そのために、このようなプレイパークのような取り組みが現代社会の中では期待されているのかなというふうに受けとめております。

長井市にもこのようなプレイパークを設置するという場合には、二つの大きな課題があるなと思っております。一つは、けがと弁当は自分持ちという、そういった自己責任という考え方を広く浸透させるということがあります。もう一つは、子供たちを見守る地域主体の取り組みをあわせて立ち上げていく、この二つのことを一緒に進めていくことが施設の有効な活用ということにつながるのかなというふうに思っております。

私のほうからは以上でございます。

○蒲生光男議長 平 正行観光振興課長。

○平 正行観光振興課長 我妻議員の質問にお答えしたいと思います。

我妻議員もおっしゃってましたが、11月30日に観光シンポジウムが初めて行われました。そこには清水先生をお招きして開いたわけですが、観光客数に注目するのではなく、いかに長井市に、つまり経済的にお金をまちなかに落とすかだという点であったり、町並みや文化を大切に、オリジナルとして観光資源に生かすべきである。また、行政と観光協会の図式から抜け出す観光プラットフォームの考え方であったり、本当に我々が目からうろこのようなお話がありました。

同日に、夜でありましたが、観光振興計画の第3回目の策定委員会が開催をされました。振興計画は今後10年間の観光による振興策を見出すものでございます。その中で、あやめ公園についての記述があります。ブラッシュアップの部分でございますけども、あやめ公園の特徴である長井古種を生かしながら、美しく見せる公園と見直しを図るとしております。まだ最終で

はありませんけどもこのような言葉で締めくくってございます。

また、あやめ公園を通年型にすべきという点でございますが、私も同意見でございます。ただ、市民公園として通年化すべきか、観光公園として通年化すべきか、今と同じような混在した通年公園を目指すべきかで方向性が違ってまいります。市民公園というのはつつじ公園のように無料化、こういった言葉もございます。あと観光公園というのは、我妻議員おっしゃったような、あやめ公園プラス花公園のような通年に花を楽しむ、こういった公園もございます。あとは混在したということで、期間限定の観光公園、今現在進めているものですが、どの方向を目指すかをきちっとやっぱり見きわめて進む必要があるんだろうなと考えてございます。これらについては、25年度以降、やはりきちっと本格的に検討に入らなければならないと思えます。

また、24年度では長寿命化計画、これを立てている最中でございますので、効果的な整備を目指す必要を考えております。

また、あやめ公園の北半分については、本当に整備についてはまだまだでございます。長寿命化計画では範疇には入ってございませんが、市民の有志でつくった滝であったり、噴水であったり、これは昭和初期でございますね。あと池、これも市民有志でつくられたものです。ある委員は、あの水路の中で子供が魚をとる姿、これをぜひ残すべきではないかとか、多くの意見が寄せられています。

あやめ公園の中のあやめ会館、これは昭和48年、議員おっしゃるとおり、本当にもう時代には合わないものになりました。あわせて無料休憩所、あわせて添乗員室、これ有料化にあわせて整備をしたものでございまして、いずれももう老朽化しておりますことは本当に私も頭の痛いところと考えておりますが、こういった部分

も含めて、やはり25年度以降、本格的に検討しなければならないと思います。

ただ、あやめ公園は明治43年から市民が誇りを持った公園として、誇りとしてきたものです。市章にもあやめが入ってございます。あやめとほかの花の混在、これがいいのかどうか、これまでは排除の方向で、花菖蒲だけを植え込んできました。植え込んできたせいもあって、見ごろが2週間という限定的になります。ただ、どういことがいいのか、来年度以降やっぱり十分検討しなければならないのかなと思っているところです。

また、道の駅に関しましては、国道287号沿いに計画があるわけですが、目的は道の駅に人を寄せることが目的ではございませんで、まちの中いかに入れるか、中心市街地、そういったところいかに入れるか、また、あやめまつりの期間にフリー客をいかに入れるか、それを入り口として計画をしたものでございます。あやめ公園にあることも、もちろん考え方としてはあるわけですが、287号のやっぱり交通量の多いところが一番よろしいのかなと考えているところです。以上でございます。

○蒲生光男議長 浅野敏明まち・住まい整備課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 我妻議員のご質問にお答えいたします。

私からは2点だと思いますが、まず一つは、道の駅の整備の関連でございます。道の駅の設置基準がありまして、それによりますと主要幹線道路、国道、県道を指しています。おおむね1日当たり5,000台以上の交通量がある路線を対象とする基準がございます。山形県におけるほかの道の駅、17カ所ございますが、うち16カ所が国道沿いに設置されているところでございます。

我妻議員からのご提案があったあやめ公園周辺の幹線道路としますと、県道の主要地方道長井大江線沿いが考えられますが、平成22年度の

交通量調査では1日当たり3,558台であります。国道287号線は1万7,407台と、調査結果でございますが、約5分の1程度の交通量でございます。設置した場合の経営面からも考えますと、非常に難しいのではないかとこのように思います。

2点目の屋根つき広場の整備の関連でございます。先ほど市長からもありましたが、施設の整備に当たりましては、社会資本整備総合交付金の活用は欠かせないものでございます。現在、都市公園の長寿命化計画策定のための調査を行っております。今後、施設の再整備についても長寿命化計画の中で検討していきたいと思っております。屋根つき広場につきましても、あやめ会館にかわる代替施設、もしくは運動広場に多目的運動施設など屋根つき広場も考えられますので、今後そんな中で検討していきたいというふうに思います。以上です。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。

最後の道の駅の設置、建設基準というんでしょうか、交通量の話が出ましたけども、今道の駅という言い方をすればそうなんです、前から言っているとおり、道の駅にこだわらなくても、まちの駅とかいろんなスタイルがあると思うんですよ、道の駅にこだわればそれは基準があるんでしょうけれども。

私は、国道にあるからまちなかに来る、あやめ公園だとまちなかに来ないという、その考え方はおかしいなあと思うんですよ。あやめ公園もまちなかじゃないですか。あやめ公園だって横町とか十日町と隣接していて、歴史的な建物を散策してもらったり、そういうふうにしてまちなかに引き込むんじゃないですか。今あるここの長井小学校の旧マークのところと、あやめ公園と、旧マークのところからは歩いてくけれども、あやめ公園からはまちなかに歩いてこないという考え方はおかしいんじゃないです

か。市長いかがですか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員がおっしゃってることと私どもが言ってること、ちょっと違うニュアンスだと思っ
てます。やはり道の駅については、できるだけ
フリーでいらした、たまたまそこを通っただ
けども、長井市を通ったらかわと道の駅があ
って、ちょうどトイレ休憩とか何かのぞいて
みたいということで、よりフリーのお客様を
かわと道の駅に入っただけのチャンスがある
ということで、それがあやめ公園のほうで
す交通量が少ないので、よりフリーのお客
さんはあんまりいらっしやらないんじゃない
かと。特に287号線はサクラランボのシー
ズンとか白鷹方面へ向かっていくお客さん
がよく通るところです。しかし、あやめ公
園のところはなかなか、わざわざ行か
ないと難しいと。市民、地域の人が通
る道なので、それでこちらの287号線沿
いがいいんじゃないかということをして
上げてるので、我妻議員おっしゃったよ
うに、道の駅からまちなかに出るのはあ
やめ公園の道の駅でも同じだと思います。
で、言ってることは、よりフリーのお客
さんに入っただけのためには287号線の
交通量の多いところがいいという話をし
ていることだと思います。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 旧マーク跡地ですと道の
駅だけなんですね。私が言ってるのは、こ
れ一つの案で、前にはこちらのTASの周
辺の案も出しましたが、きょうの案は温
泉もついてるんですよ。温泉もあって、
河川敷もあって、運動公園もあって、
プレイパークもあって、そしてあやめ
公園もあって、道の駅もあるんですよ。
単なる道の駅じゃないですよ。道の駅
という言葉が違えば、まちなかの駅とい
う、市民の駅でもいいでしょうけれど
も、あやめ公園駅でもいいでしょうけ
れども、そういった魅力

をあやめ公園周辺に、どこにもない、だ
れもまねできない、どこの地域でもま
ねできない空間にすれば、交通量なん
ていうのは全く関係ありません、目的
を持って来るわけですから。そう思
いませんか、市長。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員のおっしゃってることは否
定はしません。ただし、だからとい
ってなぜあそこで悪いのか、それ
も私はわかりません。別にあやめ
公園のところは、わざわざいら
っしゃるんですしたら道の駅なん
かなくてもいいんじゃないです
か。今回、ずっといろいろ議
会の皆様からご議論いただ
いてるかわと道の駅の趣旨
から考えますと、最上川の
舟運であったり、あとま
ちなかのちょうど宮と小
出の境のところにある
のが望ましいというこ
とでお話しして
るわけでありま
して、なおかつ
フリーのお客
さんに、長井
市に本当は食
事するとか買
い物する予
定がなかった
お客さんに
ぜひ長井を
再発見して
もらおうと、
あるいは認
識してもら
おうという
ことでの考
え方です
ので、我妻
議員おっ
しゃって
ることは
ちょっと
違うん
ですよ
ね。です
から、そ
れがど
うだ
と言
われ
るの
は、我
妻議
員お
っし
や
るの
もご
も
と
も
で
す。

ですから、あやめ公園周辺をわざわざそれを
目的にいらっしゃる方をふやすような取
組みをすればいいわけであって、それが
一つは道の駅みたいな機能をつくれ
ばいいのかもしれない。でも、今
回はそういったことで提案して
るわけでないわけですから、全
くちょっと議論がかみ合
わないと。ですから、否定は
しませんが、我妻議員おっ
しゃってることと、今回、
かわと道の駅を提案して
る内容についてはちょっと
違うのではないかという
ふうに私は思っています。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 議論を根本に
戻しますけれども、何が悪いのか
と、道の駅を新たに新し

い土地を買って新しい建物を建てますよね。でも、行財政改革推進委員会からもご指摘のとおり、ほかにはもうこれから待たなして、あやめ会館も含めて公共施設を直さなくちゃいけない、あるいは廃止、統合、改築ということを選択をしなくちゃいけないというときにまたお金かかるじゃないですかと。それだったら、ここにつくればよかった、こうすればよかったって後から考えたってもう遅いんですよ。またお金かかるじゃないですか。今のうちに全体的な公共施設とともに道の駅考えませんかと言ってるんですよ。

47年につくられたあやめ会館、もうあんなところにお客さんを呼ぶなんて恥ずかしいですよ、私、毎年行ってますけれども。恥ずかしい施設なんですよ。その議論を何もしてこなかったんではないというふうにおっしゃいますけれども、その議論を差しおいて道の駅の議論を始めたわけですから、私から見れば、今ある公共施設の老朽化を差しおいて新しい公共施設の議論を先行させていたというふうに言わざるを得ないですよ。

後からどうせお金かかるんですよ、公共施設を建てかえたり直したりするのに。だから、今のうちに道の駅をつくるんだったら、これ、私つくっちゃだめだとか、都市再生整備そのものがだめだなんていうふうに言ってません、どうせお金を使うんだったらもっと有効に使いましょうというふうにずっと再三申し上げておりますので。後からあやめ公園と一緒にすればよかったなあですか、タスパークホテルの近くに建てればよかったなあとか、文化会館建て直すときに一緒にやればよかったなと言っても遅いんですよと。だから、こんなになぜ急ぐんですか、なぜ新しい建物にこだわるんですか、独立した建物にこだわるんですか、複合ではだめなんですか。まず、一回ここは考え直して、仕切り直してできませんか、市長。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

我妻議員のかわと道の駅に対する考え方がいろいろ変わっていらっしゃるようなんですが、そうしますと、あやめ公園を道の駅みたいにしたほうが良いということのご議論のような感じがいたしますが。私は、我妻議員が全然触れていらっしゃらないんですが、本町の街路事業、そして駅前通りの街路事業、それをきっかけとして中心市街地の活性化を図っていくと。さらに、よく「ないものねだりするな」というのが我妻議員の持論の一つだと思うんですが、それはそのとおりです。しかし、最上川舟運を伝える非常に貴重な歴史的建造物を残念ながらまちなかにあるにもかかわらず生かせないと、これを生かすにはぜひ街路事業をうまく活用しながら、これは県の事業でございますから、やっぱり市も一体となってそれらを活用するような考え方をすべきじゃないかということでございます。

そのため、いろいろ議論がありますけれども、中心市街地活性化によりましてさまざまな雇用が生まれるチャンスがいっぱいあるんじゃないかと。あるいは、観光を生かしたまちづくりを進めることによって、やはりこれも雇用が考えられる、経済波及効果が考えられるということで、このたびいわゆる中心市街地に隣接し、なおかつ長井市を素通りしてる車の方に、ぜひ長井市に、まちなかに入っていただくようなきっかけづくりとして提案しているわけでございまして、ですから、先ほどから申し上げますように、ちょっと議論がかみ合わない。

あと、公共施設についてはもっと、これだけもう老朽化して大変な状況なんだから、そんなところにお金をかけるんだったらそっちが先じゃないかということをお話しなされていますが、それもそのとおりです。しかし、なぜ今回、かわと道の駅をぜひやるべきかということは、長

井市の都市力を再生するきっかけづくりをしたい。それによって地域の経済を活性化させて、産業振興と雇用、これをねらっていこう。それによって少子化が著しい長井市の若い人たちが少しでも働く場を見出すことができるような、そういった手だてになるんじゃないかということで提案してるわけでございまして、ですから老朽化した施設というのは、それはそのまま新しくするのも必要ですし、改善もしなきゃいけない、改修もしなきゃいけない、しかし、地域の活性化はそれだけでは図れないと。ですから、それも必要だけど、地域の活性化をどうするかということでお話ししてるわけでありまして、ですから、あやめ公園をそういうふうにするのもいいかもしれません。しかし、あやめ公園をテーマパークにするみたいな話ですよ、道の駅をつくって常時わざわざあやめ公園に来てもらうような手だて。そうしますと、確かにあそこの敷地はありますよ。でも、その中に例えば民家が近いところに24時間365日のそういった施設というのはなかなか成立するのは難しいんじゃないかと。なおかつ、あやめ公園をある程度は変えていかなきゃいけないわけですね。ですから、これはやっぱりじっくりと検討するべきじゃないかと。かわと道の駅を今の予定地のところへつくるんだったらそっちへつくったほうがいいということの議論とは少し違うと私は思っております。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 だから、じっくり議論したいんですよ。議論ないまま進めたんじゃないですかと言ってるんですよ。順番逆でしょうと、前から言ってますけれども。順番が逆じゃないですか。どっちにしろかかるんですよ、公共施設を建てかえたり改築したりするのは。どっちにしろお金がかかるんだから、一緒に今議論をして、改築する。どうせかかるんだったら、今のうちに道の駅とか花公園も将来公共施設の建

てかえ必要などころと一緒にやったらいいんじゃないですか。例えば、前に言ったのはT A S周辺であったり、文化会館もそうかもしれませんが、今回提案してるのはあやめ公園。私、あやめ公園だけにこだわってるわけじゃありません。そういったことを議論しないままに進めてきたんでしょと、新しい土地を買って、新しい施設を建てるということに。そうじゃなくて、公共施設どうあるべきなのかと、それと一緒に観光振興計画だったり都市再生整備計画を進めるべきじゃなかったんですか。今からでは遅いんですか。

中心市街地活性化とからませて言っておりますけれども、例えば、T A S周辺だって中心市街地の活性化、街路事業と絡みますし、あやめ公園だって同じですよ。何も今の案のところしか中心市街地活性化と結びつかないなんてことはありませんよ、駅前じゃないとだめだとか。話が強引だと思いますよ、市長、いかがですか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 もうここまで来ると見解の相違としか言いようがないんですが。公の施設については、例えばあやめ公園も範疇は公の施設かもしれませんが、あそこは市民の憩いの場であり、市民が通年親しみ、楽しめる場所、同時に今、我妻議員おっしゃっているのは、そこを経済の活性化の拠点にすべきだということですよ。そうしますと、そういった施設と、例えば文化会館、あるいは図書館であったりスポーツ施設であったり、そういったものは私はちょっと範疇が違うと思っております。

(「違いますよ」の声あり)

○内谷重治市長 そこが違うんだ。だから、見解の相違なんですよ。

あと、確かにまちなかは全てまちなかですよ、あやめ公園でも、あるいは中道、百間通り、花作のほうも中心中央地区ですよ。でも、私が今回申し上げてるのは、中心市街地の活性化の基

本計画などは、やはりエリアがある程度定めざるを得ないんですよ。それは、街路事業あるいは駅前通りを含めたまちなかの核となる部分をどういうふうにして新しい長井の顔づくりをしていくかということで、それを円滑に進めるには、やっぱり国、県の力だけに頼るんじゃなくて、地元の市もそれが円滑に進み、賑わいづくりに少しでも寄与できるような、そういった長井市としての施策も必要なんじゃないかということで申し上げてるわけでありまして、もう街路事業は始まっているわけですよ。

例えば、文化会館一つにしてもじっくり議論するといっても、やっぱり一、二年でできる話ではないわけですよ。もう街路事業がどんどん進んでる中で、どういうふうを考えていくかです。ですから、今回の意見交換会でも議会でもなさったということですけども、スピード感を持ってやるべきじゃないかと、これだけ長井市が経済的に低迷してる中で、人口もどんどん減っていくと、そういったことでの議論でありますので、そこはご理解いただきたいと思えます。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 じっくり議論してこなかったツケが今回ってるんだと思えます。公共施設をどうするのかというのは市長が就任したときから進められるべきだったんじゃないですか。じっくり議論してこなかった、あるいはスピード感のなさが今のこの混乱を招いてると言わざるを得ません。

見解の相違だというふうにもう結論づけられましたのでしようがありませんが、私は複合施設が今の流れだと思っております。単独で観光施設だけ、単独で文化施設だけ、体育施設だけ、もうそういう時代は終わったと思っております。文化施設も体育施設も、もはや産業振興につながりますし、経済の活性化につながります。人が集まる場所で物が売り買いされる、そういう時代でありまして、行政もまた同じで、文化

や芸術や産業も全部分ける、観光も分ける、そういうことではないというふうに私は思っております。でも、見解の相違ということですので仕方ありません。

先ほどお答えが漏れたのかと思うんですが、人道橋、歩道橋ですけれども、はぎ苑から大体200万円弱でしょうか、200万円ぐらいの入湯税をいただいております。それは還元しなくちゃいけません。もう大分年月たつてずっともらってるわけですが、どのように還元するのか、あるいはこれからどうそれを生かしていくのか。これについて、市長、いかがですか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

時間もありませんので、簡潔に申し上げますが、はぎ苑さんと、それから桜湯さんから入湯税いただいているわけですね。はぎ苑さんは特に多額の入湯税を納めていただいておりますが、基本的にはぎ苑さんが納めてるんじゃなくて、おふろに入っていたら人に納めていただいているわけですから、そういうはぎ苑さんに行かれる人たちの道路とか、そういったことで考えたというふうにお話ししましたところ、はぎ苑さんとしては、そうじゃなくてももう少し、例えばあやめ公園とつなぐとか、そういったことをお願いしたいと。あるいは、入湯税をいただいているということから、さまざまな特典じゃないですね、ある程度配慮はしてるつもりでございますけれども、今後もう少し協議をしながら、はぎ苑と桜湯さんとは、どういった形で還元していったらいいかを話していきたいと思えます。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 入湯税は200万円と仮にしたとしても、例えば5,000万円なり1億円かかるような事業をしたとしても、何十年という単位で返してもらおうと言うと語弊がありますけれども、元が取れるんですよ。だから、今後は人道橋、歩道橋を単独でも考えていきたいと、

これからあやめ公園の長寿命化の計画の中で考えていきたいということですので、ぜひそこも単独だとしても取り組んでいただきたいと思っております。そうすることによって、その200万円が300万円になるかもしれません。ここは温泉街ではありませんので、あそこに独立してあるわけですから、いかにそこにお客さんを誘導するかというのが入湯税の使い方の根本だと思っておりますので、そこをしっかりとこれから議論していただきたいと思っております。議論が遅いというふうには私には思いますが、これからご期待を申し上げるところでございます。

以上で質問終わります。

梅津善之議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位7番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 おはようございます。

雪がもさもさと降っておりますので、我妻議員に負けないような熱い議論になるように頑張りますので、よろしくお祈りいたします。

通告に従いまして、質問していきたいと思っております。

まずは、教育長、管理課長にお尋ねいたします。

1点目でございますが、今年の5月25日金曜日の夜でございます。平野小学校の体育館のバスケットのリングが天井より振り子のように落ちてきたということをお聞きしました。その日はスポーツ少年団の練習の終わりにリングを父兄の方が上げて終了したかしないかのときだったそうです。たまたま子供たちと父兄はいつも段の下でミーティングをするそうなんですけども、その日に限ってはユニフォームを配布して

おりまして、リングの下じゃなくてわきのほうにいたので特段けがはなかったということですが、学校の設備として天井から物が落ちてくるなんていうことが普通はあり得ないと私は思っております。いかに上に上げておいたものだとしても、リングが落ちてくるなどということはありません。

通常どのような方法で点検をなされているのか、また定期点検をどのように受けとめているのかということをご教育長、管理課長にお伺いしたいと思います。

また、市内6小学校、中学校二つあるわけですが、さまざまな体育施設の点検はどうなっているのか、またその結果、どのような対応をしているかをぜひお聞きしたいと思います。

この5月25日というのは、ちょうど平野小学校の120周年の記念事業をしておいた日でありまして、私もTASで懇親会の最中でありました。これはもっと学校設備に対して注意をしろという何か警鐘のように聞こえてまいります。ぜひその辺の点検の状況など教えていただければありがたいものかなと思います。

続いて、2点目でございます。小学校5、6年生に自分でつくる弁当の日をつくってはということでございます。これは11月の17日、山形県男女共同参画センター、山形県、長井市まちづくり青少年育成会議が主催した竹下和男先生の置賜リレー講座で提案がなされたことでございます。私も妻と娘と3人で参加してまいりました。

まず冒頭、竹下先生からは、一人の女性が乳がんで、5歳の子供を持つ母親でございますが、余命5カ月と言われて、その子供に親として何ができるかということを考えさせられたと。そのお母さんは、この5歳の子供にみそ汁の作り方を教えて命を絶たれたということでございます。生きていく上で何が一番必要かということを考えさせられることではございました。